『色白』の嗜好構造に関する一考察

早稲田大学
齋　藤　美　穂

The main purpose of this study is to determine the psychological structure of aesthetic preference for white by surveying the preference for a fair complexion. A series of studies on color preference conducted by the author have shown a strong preference for white among Japanese and other Asian subjects (Japanese Psychological Research , Vol.36, No.4, 1994). This suggests that "whiteness" and positive feelings like "pleasantness" may be interrelated for Japanese and Asian people, as shown, for an instance, by the ancient Japanese saying "A fair complexion can hide seven blemishes." Not only to determine whether or not a fair complexion is preferred psychologically but also to study the cultural aspects of the preference for complexions, 176 Japanese and 132 Indonesian male and female university students were presented four stimuli, i. e., four pieces of paper, each colored with one of four stages of flesh color from fair to dark. Covering each color sample was a transparent plastic sheet with a drawing of the contour of a female face. The subjects were then asked to answer a questionnaire designed to discriminate personal images. The results, examined by both Factor Analysis and Quantification Method III by Hayashi, showed that the images associated with a fair complexion were positive in Japan, but were rather negative in Indonesia. This suggested that the cultural criteria in feelings of pleasantness and beauty may have been a factor in the study results.

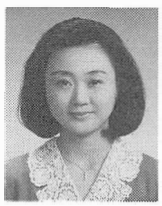
1　緒　言

白に対する嗜好順位が我が国における色見本を使用した選択評価による色彩嗜好調査結果の中で比較的上位に出現しはじめるのは Tsukada & Funatsu & Sato (1964)[14]の研究以降であり、その後の中小企業振興事業団と千々岩(1972)[2]の研究結果や日本色彩研究所による嗜好調査結果の継年変化 (1992)[7]および齋藤ら (1991)[10, 11]による東京・大阪・福岡・富山の4都市で実施した調査結果からも日本での白嗜好は高く安定していることが確認されている。

また齋藤 (1981)[9]は日本人の色彩嗜好傾向を9つの文化的グループ（アメリカ・ドイツ・デンマーク・オーストラリア・パプアニューギニア・南アフリカ共和国・日系米国人・在日外国人）の間で比較し、日本での白嗜好の高さは他のグループには観察されない傾向であることを報告した。さらに1988年にはソウルと東京との色彩嗜好傾向の比較（齋藤1992)[12]、また1992年には天津、台北、東京での比較研究を行った（齋藤1994)[13]。その結果から白嗜好は他の周辺アジア地域でも観察され、むしろその傾向は日本を上回っていることが分かった。白に対する嗜好理由を調査の自由回答から探ると、東京やソウルでは清潔感や純粋が主な理由となっているが天津や台北では純潔が最も多く、時には白に対する神聖視も見られた。

ところで日本文化の中で白いものが良いとされる具体的なある種の概念に「色白は七難隠す」という古くからの言い伝えがあるが、特に女性において色白の肌の方が好ましいという概念は光との関係から生まれている。昔の家屋の構造も原因して低照度下で営まれた生活場面では高明度の色白の顔色は顔の明るさとして映え、この明るさが好まれ美しいとされ化粧文化の中ではおしろいの使用へと関連してくる。特に最近の化粧文化の中では紫外線の有害性やホワイトニングに対する意識の高まりが注目されている。

本研究はこの色白に対する嗜好構造を探ること



A study on the structure of preference for a fair complexion
Miho Saito
School of Human Sciences,
Waseda University

を目的とするが、具体的には、肌の色における白さは果して本当に好ましいとされているのか、また色白肌はどのような心理的イメージを持って構成されているのかという点を、他の肌色との相対的なかかわりの中で検討することにある。またその評価に対する文化的な差異という点に関しても興味がある。本研究では日本の嗜好構造をインドネシアと比較したがその主たる理由は、同じアジアに位置するインドネシアにも色白の肌を好ましいとする概念があることと、日本に比べ多民族文化である為、色白への嗜好構造が日本とは若干異なるものと仮定したからである。

研究は調査１と調査２により構成されている。調査１は調査２のプリテストとして日本の女子大学生に実施したものであるが、調査２は文化的側面を検討するため日本およびインドネシアの男子大学生と女子大学生に実施した。調査１は刺激の選択パターンより因子分析を用い嗜好構造を探ってみたが、調査２では被験者が各評価語に対して選択した刺激の第一選択に着目し、数量化Ⅲ類により分析したものである。

2 方 法

2・1 被験者

調査1；日本の女子大学生（18才から20才）59名。

調査2；日本（東 京)の大学生176名（男性90名・女性86名）、およびインドネシア(ジャカルタ）の大学生132名（男性68名・女性64名）。被験者総数308名（男性158名・女性150名）。年齢はいずれも18才から25才。

2・2 調査刺激

既存の研究より日本人の肌色を調査し分類した肌色調査結果[6]を参考にしながら、ナチュラル肌の肌色色票である以下の4種の刺激を抽出した。

( ) 内はJIS記号。

刺激1：ナチュラル肌/色白肌(5.0YR 7.5/4.0),

刺激2：ナチュラル肌/普通肌の色白寄り (5.0YR 7.0/5.0),

刺激3：ナチュラル肌/普通肌の色黒寄り (5.0YR 6.5/5.0),

刺激4：ナチュラル肌/色黒肌(5.0YR 6.0/5.0)

2・3 手続き

上記４種の刺激に従って４種の肌色色票をB5版の大きさで作成し、それらの上に女性の顔の輪郭が描かれた透明シートを重ね、これをもって４枚１組とした。なお肌の色が白いか黒いかというイメージは多分に相対的な関係も考えられるので、被験者にはこの１組中の４つの刺激を同時に１より左から順に並べてもらい、容貌を手がかりとしたパーソナリティーイメージの因子分析結果[5]を基に選び出した52個の評価語(次 項に対して、最も適切だと思う順番に刺激の順位づけをしてもらった。

使用照明は蛍光灯。なお質問紙はインドネシア語・英語・日本語のものを用意した。

2・4 評価語

01）美しい、02）明るい感じ、03）女性的な感じ、04）りこうそうな感じ、05）親しみやすい感じ、06）ふけた感じ、07）のんびりした感じ、08）貧相な感じ、09）派手な感じ、10）柔らかい感じ、11）はきはきとした感じ、12）近づきやすい感じ、13）古くさい感じ、14）いやらしい感じ、15）陽気な感じ、16）丸みのある感じ、17）きりっとした感じ、18）好き、19）落ち着いた感じ、20）弱々しい感じ、21）知性的な感じ、22）モダンな感じ、23）育ちがよい感じ、24）うわべだけの感じ、25）可愛らしい感じ、26）静かな感じ、27）軽い感じ、28）意志が強そうな感じ、29）貴族的な感じ、30）保守的な感じ、31）善人のような感じ、32）デリケートな感じ、33）特色のある感じ、34）清潔な感じ、35)ていねいな感じ、36)うちとけた感じ、37）幼い感じ、38)上品な感じ、39)愉快な感じ、40）ねちねちした感じ、41）消極的な感じ、42）やさしい感じ、43)おとなしい感じ、44)甘い感じ、45）うすっぺらな感じ、46）あたたかい感じ、47）あじわいがある感じ、48）しゃれた感じ、

Table 1　因子マトリックス

質　問　項　目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
育ちが良い	-.8932	-.1387	.0043	.3045	-.0918	.1846
デリケートな	-.8363	.1059	-.0406	-.1211	.1990	-.0665
上品な	-.7847	.2969	.2709	-.0119	-.0618	.0082
ていねいな	-.7648	.0162	00238	-.1259	.2548	-.0049
特色のある	.5763	-.2318	-.1682	.2256	.0851	-.0031
丸みのある	-.4899	.3944	.1103	-.0626	-.0414	.0091
ねちねちした	.4047	.1102	.3366	-.3993	.0093	.0575
美しい	-.3534	.0117	-.1334	.2870	.2277	.0939
優しい	-.0040	.7050	.0216	.2522	.2748	-.0280
柔らかい	-.3733	.6553	.1495	.1602	-.2053	-.0455
のんびりした	.0305	.6377	-.0699	-.0398	.0489	.0083
うちとけた	.0314	.5641	-.3149	.1559	-.1285	.0680
善人のような	.1091	.5127	-.2380	.0544	.2435	.0561
甘い	-.3679	.4568	-.2061	-.0150	.3249	-.1010
好き	.1774	.3789	-.1596	.3682	.2440	-.1301
可愛らしい	-.0485	.3707	-.0232	.0124	.0557	-.2633
清潔な	.0197	.1532	.0137	.0417	-.0999	-.0393
幼い	.0262	.1373	-.1058	-.0580	-.1285	.0968
陽気な	.1752	-.0221	-.7834	.0781	-.0635	-.0206
弱々しい	-.2596	.0300	.6732	.0353	.1331	.1398
はきはきした	-.1606	-.0567	-.5547	.3244	-.2653	.1104
愉快な	.3937	.1278	-.4909	.3332	-.0659	-.0263
親しみやすい	-.1737	.4691	-.4909	-.0088	.1589	.2588
ふけた	.0937	.3455	.4643	-.1496	.1916	.0131
きりっとした	.2202	-.4400	-.4569	.2643	.1373	-.0518
派手な	.3280	.1069	-.4336	.0095	-.1646	.0749
貧相な	.0522	-.0762	.3594	.0280	.1398	.1247
あたたかい	-.1550	.2120	-.3530	-.0082	.2745	.1184
古くさい	-.0311	.0409	.3012	-.1752	.1373	.2886
女性的な	-.1323	.0223	.2534	.0814	-.0987	-.1010
魅力的	.1154	.2177	-.1501	.6953	.1451	.0552
しゃれた	-.0413	.1932	-.1083	.6624	-.1577	.0756
貴族的な	-.0659	-.3661	.0209	.5197	-.1120	.3575
モダンな	.2682	.0749	-.1964	.5178	.0382	-.0925
知性的な	-.3568	.0502	.1785	.4592	-.0476	.3350
明るい	-.3313	.1875	-.0825	.4558	.0428	-.2370
いやらしい	-.0647	-.2338	.3283	-.4425	-.3101	.0719
消極的な	.1075	.0143	.1357	-.3292	.2486	.2608
女らしくない	.1034	-.0912	-.0515	-.2025	-.1619	.0428
いばった	.0480	.2039	.0490	-.1811	.6785	.0696
おとなしい	-.0507	.0668	.2468	-.0896	.6580	.0077
静かな	-.4168	-.2296	.0196	-.2385	.6203	.0869
落ち着いた	-.0080	.0542	.1273	.1281	.5927	.1632
おだやかな	-.1014	.3535	.1838	.0113	.5235	.1699
うわべだけの	.3181	.1285	-.1085	-.3635	-.3891	-.1295
軽い	-.1756	.1457	-.0918	-.1056	-.2393	-.6562
保守的な	-.2644	-.0355	.0404	-.0367	.0582	.6560
りこうそうな	.0112	.0422	.0467	.0605	.0698	.5604
意志が強そうな	.5133	.0110	-.0247	-.1079	-.0593	.5500
近づきやすい	-.3114	.2657	-.4301	.2299	.0217	.5281
あじわいがある	-.3249	.2663	-.1900	.0705	.0936	.4844
うすっぺらな	-.0647	.1915	.1413	.0709	-.3013	-.3763

49）女らしくない感じ、50）おだやかな感じ、51）いばった感じ、52）魅力的

2・5　分析

調査1；上記4つの刺激の選択反応パターンに対して因子分析を行った。

調査2；上記の手続きにより得られた結果に対し、色白肌（5.0YR 7.5／4.0）の刺激を最初に選んでいる評価語に対し1を与え、それ以外の刺激を選んでいる評価語に対しては0を与えたパターンをケース1、同様に普通肌の色白寄り（5.0YR 7.0／5.0）の刺激を最初に選んだパターンをケース2、普通肌の色黒寄り（5.0YR 6.5／5.0）の刺激を選んだパターンをケース3、色黒肌（5.0YR 6.0／5.0）の刺激を選んだパターンをケース4とし、各ケースについて数量化Ⅲ類により分析した。

2・6　実施期間

調査1；1992年10月

調査2；1993年4月～1994年1月

3. 結　果

3・1　調査1の結果

4刺激の順位づけに対する被験者の選択反応パターンとしては全部で24パターンあるが、選択反応パターンの各評価語に対する度数を調べた結果、色白肌－普通肌の色白寄り－普通肌の色黒寄り－色黒肌の順番で選択された評価語として反応数の多かったものは、「女性的な」、「弱々しい」、「貴族的な」、「おとなしい」、「デリケートな」、「消極的」、「育ちがよい」、「静かな」、「ていねいな」、「上品な」、「清潔な」、「保守的な」、「優しい」、「可愛らしい」、「丸みある」、「おだやかな」、「美しい」、「甘い」などであり、逆の反応パターンである色黒肌－普通肌の色黒寄り－普通肌の色白寄り－色白肌の順番で選択された評価語として反応数の多かったものは、「女らしくない」、「派手な」、「いばった」、「陽気な」、「はきはきした」、「いやらしい」、「軽い」、「きりっとした」等が主なものであることが分かった

Table 1は、選択反応パターンと評価語との関係に対して行った因子分析による因子マトリックスである。6因子が抽出されたが、第1因子には「育ちが良い」、「デリケートな」、「上品な」、「ていねいな」等、品格と関連したものに対する因子負荷量が高くなっている。第2因子は「優しい」、「やわらかい」、「のんびりした」、「うちとけた」、「善人のような」等、好ましいパーソナリティーと関連した因子であることが分かる。第3因子には「陽気な」、「弱々しい」、「はきはきした」、「愉快な」等、強さとの関わりの他に、「ふけた」等年齢との関わりが見られる。第4因子には「魅力的な」が最も高く、その次に「しゃれた」、「モダンな」等、魅力と現代性（モダンさ）を含んでいる。第5因子には「いばった」が最も高いが、その次からは「おとなしい」、「静かな」、「落ち着いた」等が続き、静の因子と考えられる。第6因子には「軽い」、「保守的な」の他に、「りこうそうな」、「意志が強そうな」等があり、怜悧性との関連が見られた。

なお選択反応パターン頻度との関わりを見ると、第1因子（品格の因子）と第5因子（静の因子）には色白肌－普通肌の色白寄り－普通肌の色黒寄り－色黒肌の順に選ぶ反応パターンが多く、第2、第4因子には普通肌の色白寄り－色白肌－普通肌の色黒寄り－色黒肌の反応パターンが多く、第3因子（強さの因子）には色黒肌－普通肌の色黒寄り－普通肌の色白寄り－色白肌の反応パターンが多かった。また第6因子（怜悧性の因子）は普通肌を最初に選択していく反応パターンが多く見られた。

3・2　調査2の結果

調査2の結果の処理は4種のケース全てについて数量化Ⅲ類によって分析を行ったが、ここでは特に色白肌（5.0YR 7.5／4.0）の刺激に関する分析結果を中心に述べる。

Table 2　ケース1(色白肌を最初に選択したケース)に対する評価語の上位一覧表

	日本		インドネシア	
順位	評価語	選択率 (%)	評価語	選択率 (%)
1位	弱々しい	92.0	弱々しい 清潔な ++	85.6 85.6
2位	貴族的な ++	86.4		
3位	デリケートな ++	85.8	いばった ++	78.0
4位	静かな ++	83.5	貴族的な --	71.2
5位	おとなしい ++	83.0	幼い ++ しゃれた ++	70.5 70.5
6位	上品な ++	81.3		
7位	育ちが良い ++	79.5	明るい ++	65.2
8位	消極的な ++	77.3	派手な ++	59.8
9位	女性的な ++	75.8	きりっとした ++ 特色のある ++	59.1 59.1
10位	保守的な ++	71.0		
11位	清潔な --	69.9	保守的な -- デリケートな --	56.8 56.8
12位	ていねいな ++	68.2		
13位	柔らかい ++	64.8	静かな --	55.3
14位	美しい ++	60.8	育ちが良い --	54.5
15位	可愛らしい ++	55.1	軽い ++	53.0

注) 全てのTableおよびFig.において、殆どの評価語における「・・・感じ」という表現は省いた。
++および--はパーセントの差の検定において1%水準での有意差、+および-は5%水準での有意差をそれぞれ示す。なおプラス記号はその評価語における選択率をカテゴリー間で比較した時に相対的に有意に高いもの、マイナス記号は有意に低いものを示している。

Table 3　ケース1(色白肌を最初に選択したケース)に対する評価語の上位一覧表
-性別での比較-

	日本男性		日本女性		インドネシア男性		インドネシア女性	
順位	評価語	選択率 (%)	評価語	選択率 (%)	評価語	選択率 (%)	評価語	選択率 (%)
1位	弱々しい	92.2	弱々しい	91.9	清潔な +	86.8	弱々しい	85.9
2位	貴族的な +	88.9	おとなしい ++	90.7	弱々しい	85.3	清潔な	84.4
3位	デリケートな ++	84.4	デリケートな ++	87.2	いばった ++	77.9	しゃれた ++	81.3
4位	静かな + 上品な ++	81.1 81.1	静かな ++	86.0	貴族的な	73.5	いばった ++	78.1
5位			貴族的な	83.7	幼い +	72.1	保守的な	71.9
6位	育ちが良い +	77.8	上品な ++ 育ちが良い ++	81.4 81.4	明るい ++	67.6	貴族的な - 幼い	68.8 68.8
7位	消極的な ++	76.7			きりっとした ++ 派手な ++	66.2 66.2		
8位	おとなしい +	75.6	消極的な ++ 女性的な ++	77.9 77.9			特色のある ++	67.2
9位	清潔な	74.4			しゃれた	60.3	デリケートな	64.1
10位	女性的な ++	73.3	柔らかい ++ 可愛らしい ++	72.1 72.1	育ちが良い --	52.9	明るい +	62.5
11位	保守的な	71.1			静かな -- 軽い + 特色のある ++	51.5 51.5 51.5	静かな -	59.4
12位	ていねいな + 知性的な ++	66.7 66.7	保守的な	70.9			育ちが良い -	56.3
13位			清潔な --	65.1			軽い ++ うわべだけの ++	54.7 54.7
14位	美しい	60.0	甘い ++	62.8	デリケートな --	50.0		
15位	柔らかい	57.8	美しい +	61.6	やさしい	48.5	派手な ++	53.1

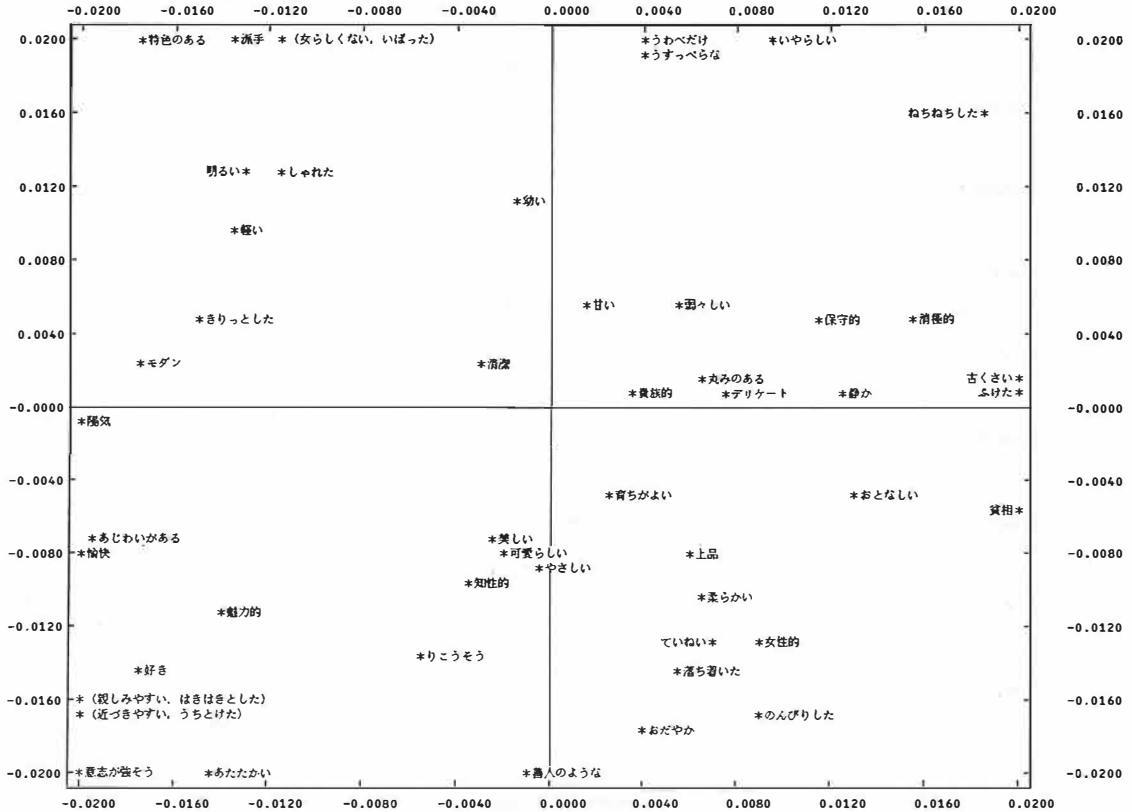
3・2・1　色白肌(5.0YR 7.5／4.0)の刺激に関する分析結果

Table 2およびTable 3は、ケース1、即ち4つの刺激中、最も色白肌の刺激である1番の刺激を最初に選んだ評価語を、その多い順に上位15位まで示した一覧表である。Table 2は日本とインドネシアとの総合的な比較であり、Table 3は両地域の性別における比較である。表中に$^{++}$および$^{--}$とあるのはパーセントにおける有意差検定において1%水準で有意差の見られたものであり、$^{+}$および$^{-}$とあるのは、5%水準で有意差のある場合を示す。

いずれの場合もプラスの記号はその評価語に対してカテゴリー間(例えばTable 2では日本とインドネシアの間、Table 3では日本男性・日本女性・インドネシア男性・インドネシア女性の間)で総合的な選択率による期待値と比較したとき有意に高かったもの、マイナスはカテゴリー間で相対的に有意に低かったものである。

色白肌(5.0YR 7.5／4.0)の刺激が最初に選択された評価語として総合的に最も多かったものは「弱々しい」の275反応であった。Table 2から両地域とも色白肌は「弱々しい」イメージと最も結びついている点は共通しており、その他、共通して持たれているイメージの上位には、「貴族的な」、「デリケートな」、「静かな」、「育ちが良い」、「保守的な」、「清潔な」があがっている。しかし日本では色白肌に対して、「おとなしい」、「上品」、「消極的」、「女性的」、「ていねいな」、「柔らかい」、「美しい」、「可愛らしい」といったイメージがインドネシアよりも高く、インドネシアでは、むしろ「いばった」、「派手な」イメージや「特色のある」「しゃれた」イメージ、また「幼い」、「軽い」、「明るい」、「きりっとした」というイメージが日本より高く選択されているのが分かる。その他、15位以下の評価語で、日本の方が1%水準で有意に高く選択している評

Fig. 1　数量化Ⅲ類による色白肌に対する評価語のカテゴリープロット(1軸×2軸)

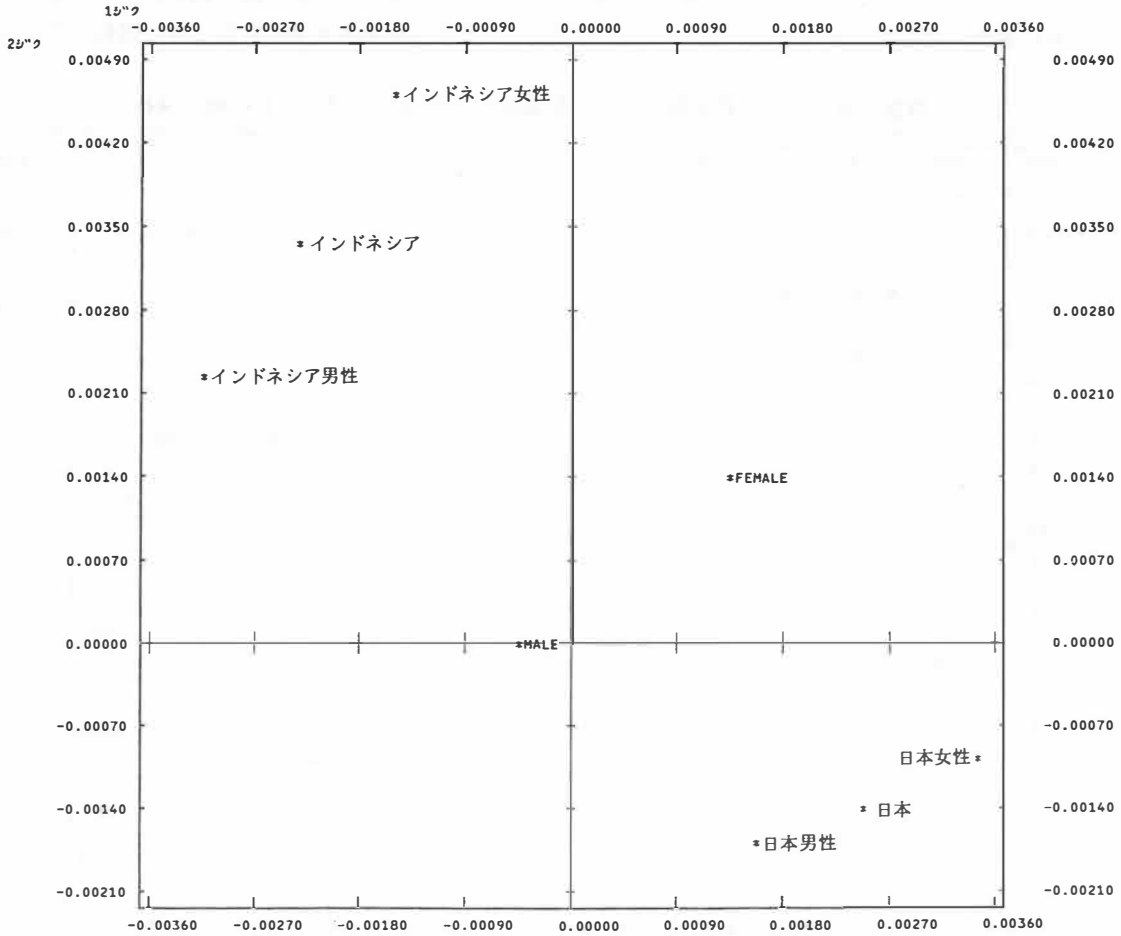


価語としては、「知性的な」、「おだやかな」、「古くさい」、「のんびりした」、「落ち着いた」、「りこうそうな」、「善人のような」、「ふけた」、「貧相な」であり、逆にインドネシアの方に有意に高く選択された評価語としては、「うわべだけの」、「あじわいがある」、「愉快な」、「陽気な」であった。

両地域のこれらの評価語のうち日本の男性に特に高く見られる評価語は、「ていねいな」と「知性的な」であり、女性では、「可愛らしい」と「甘い」であることがTable 3より分かる。「おとなしい」と「柔らかい」というイメージも女性が影響を与えている評価語と考えられる。インドネシアの男性の方に高く見られる評価語としては、「きりっとした」と「やさしい」であり、女性では、「うわべだけの」と「保守的な」であるが、「しゃれた」というイメージも女性の方に高く選択されている。

このように順位一覧表を見ても両地域における色白肌への評価がかなり異なっているようである。そこでこれらの結果を数量化Ⅲ類により分析した。Fig. 1 は、ケース1における評価語のカテゴリースコアを1軸と2軸によりプロットしたものである。各軸の味を分析すると1軸は、陰気で消極的な感じか、陽気で活発な感じかを分けている軸であり、積極性・消極性の軸と言えよう。それに対し2軸はうわべだけの表層的な感じか、あたたかい善人そうな感じかを分けている軸のようである。

Fig. 2　数量化Ⅲ類による色白肌に対する国および性別のカテゴリープロット(1軸×2軸)



これにFig. 2 の日本とインドネシアの性別および国別のプロットを考え合わせると、インドネシアでは日本に比べ色白肌に対して「特色のある」イメージ(インドネシア;59.1%$^{++}$, 日本;10.2%$^{--}$)や「しゃれた」イメージ(インドネシア;70.5%$^{++}$, 日本;37.5%$^{--}$)、「明るい」イメージ(インドネシア;65.2%$^{++}$, 日本;36.4%$^{--}$)は持っているようであるが、同時に、「いばった」(インドネシア;78.0%$^{++}$, 日本;26.1%$^{--}$)「女らしくない」イメージも持っており、日本人が持っているような「女性的」(日本;75.6%$^{++}$, インドネシア;25.8%$^{--}$)で「おだやかな」(日本;50.0%$^{++}$, インドネシア;29.5%$^{--}$)「のんびりした」(日本;49.4%$^{++}$, インドネシア;20.5%$^{--}$)イメージはあまり持たれていないことが分かる。特に「うわべだけ」の表層的なイメージの方向にベクトルが向いているのは、インドネシア女性の方であることがこの図からもわかる(日本男性;21.1%$^{--}$, 日本女性;37.2%, インドネシア男性;32.4%, インドネシア女性;54.7%$^{++}$)。インドネシア男性の方は、女性に比べると「きりっとした」、「陽気な」(日本男性;7.8%$^{-}$, 日本女性;4.7%$^{--}$, インドネシア男性;32.4%, インドネシア女性;23.4%)イメージの方向にベクトルが向いている。日本男性は、「善人のような」(日本男性;44.4%$^{++}$, 日本女性;29.1%, インドネシア男性;22.1%, インドネシア女性;14.1%$^{--}$)、「りこうそうな」(日本男性;45.6%$^{++}$, 日本女性;29.1%, インドネシア男性;27.9%, インドネシア女性;14.1%$^{--}$)、「好き」(日本男性;44.4%$^{++}$, 日本女性;31.4%, インドネシア男性;29.4%, インドネシア女性;25.0%)、「意志の強そうな」(日本男性;22.2%$^{++}$, 日本女性;4.7%$^{--}$, インドネシア男性;14.7%, インドネシア女性;7.8%)等の方向にベクトルが向いているが、日本女性の特徴は、「貧相な」の方向にベクトルが向いていることである。これは色白肌に対して日本人全体としてはポジティブなイメージを抱いているものの、日本女性の中では貧相なというイメージを持っている被験者が男性より若干多かったことに起因する(日本男性;30.0%$^{+}$, 日本女性;34.9%$^{++}$, インドネシア男性;5.9%$^{--}$, インドネシア女性;4.7%$^{--}$)。

Table 4　ケース2(普通肌の色白寄りを最初に選択したケース)に対する評価語の上位一覧表

	日本		インドネシア	
順位	評価語	選択率(%)	評価語	選択率(%)
1位	うすっぺらな ++	55.7	女性的な ++	56.8
2位	近づきやすい	52.3	好き 柔らかい あじわいがある	53.0 53.0 53.0
3位	親しみやすい	46.6		
4位	魅力的	43.2		
5位	好き	42.0	落ち着いた ++	52.3
6位	あたたかい	40.9	おだやかな ++ 陽気な ++	50.8 50.8
7位	うちとけた	40.3		
8位	りこうそうな	39.2	魅力的	50.0
9位	善人のような	36.9	知性的な ++	49.2
10位	おだやかな -- 明るい	35.2 35.2	りこうそうな	48.5
11位			モダンな ++	47.0
12位	落ち着いた --	34.1	美しい +	45.5
13位	知性的な --	32.4	上品な ++	45.5
14位	モダンな -- 美しい - 可愛らしい	31.3 31.3 31.3	ていねいな ++	44.7
15位			善人のような	43.9

3・2・2　普通肌の色白寄り(5.0YR 7.0/5.0)の刺激に関する結果

Table 4およびTable 5は、同様にケース２（普通肌の色白寄りの刺激である２番の刺激を最初に選んだもの）の評価語を、その多い順に上位15位まで示した一覧表である。普通肌の色白寄り(5.0YR7.0／5.0）の刺激が最初に選択された評価語として総合的に最も多かったものは「近づきやすい」の149反応であった。Table 4から両地域に共通して多く選ばれた評価語を探ると、「好き」、「おだやかな」、「魅力的」、「知性的な」、「りこうそうな」、「モダンな」、「美しい」、「善人のような」があがる。日本の上位評価語の中でインドネシアの上位評価語に登場しないものをあげるならば、「うすっぺらな」、「近づきやすい」、「親しみやすい」、「あたたかい」、「うちとけた」、「明るい」、「可愛らしい」であり、インドネシアの場合は、「女性的な」、「柔らかい」、「あじわいがある」、「陽気な」、「上品な」、「ていねいな」等、日本人が色白肌に対して主に選択していた評価語が含まれていることが興味深い。

日本の男性が特に多く選択していた評価語は、「可愛らしい」であり、「やさしい」、「美しい」、「柔らかい」という評価語も女性より上位に位置している評価語である。日本女性の場合は「明るい」、「落ち着いた」、「知性的な」、「あじわいがある」、「モダンな」が男性の上位評価語には見られない特徴的なものとなっている。インドネシアの男性の場合は、「モダンな」、「うちとけた」、「愉快な」、「あたたかい」が、インドネシア女性の場合は、「美しい」、「善人のような」、「知性的な」、「親しみやすい」、「のんびりした」が特徴的なものであった。インドネシアの場合、「女性的な」イメージを普通肌の色白寄りの刺激に抱いているが(インドネシア;56.8%，日本;17.6%)、その傾向は特にインドネシア女性の方に多く見られるようである(男性;44.1%，女性;70.3%）。

Table 5　ケース2(普通肌の色白寄りを最初に選択したケース)に対する評価語の上位一覧表
-性別での比較-

	日本男性		日本女性		インドネシア男性		インドネシア女性	
順位	評価語	選択率(%)	評価語	選択率(%)	評価語	選択率(%)	評価語	選択率(%)
1位	うすっぺらな ++	56.7	近づきやすい+	58.1	落ち着いた +	54.4	女性的な ++	70.3
2位	近づきやすい	46.7	うすっぺらな++	54.7	好き あじわいがある +	52.9 52.9	柔らかい ++	59.4
3位	親しみやすい あたたかい 可愛らしい ++	42.2 42.2 42.2	親しみやすい	51.2			おだやかな ++	56.3
4位			好き 魅力的	46.5 46.5	魅力的 モダンな +	50.5 50.5	陽気な ++	54.7
5位							好き りこうそうな あじわいがある +	53.1 53.1 53.1
6位	魅力的	40.0	善人のような	44.2	柔らかい 陽気な +	47.1 47.1		
7位	うちとけた やさしい	38.9 38.9	明るい +	43.0				
8位			りこうそうな 落ち着いた うちとけた	41.9 41.9 41.9	おだやかな 上品な ++	45.6 45.6	魅力的 落ち着いた 美しい +	50.0 50.0 50.0
9位	好き -	37.8						
10位	りこうそうな	36.7			りこうそうな うちとけた 女性的な 愉快な ++	44.1 44.1 44.1 44.1		
11位	甘い ++	35.6	知性的な おだやかな	40.7 40.7			善人のような 知性的な 親しみやすい	48.4 48.4 48.4
12位	美しい	33.3						
13位	柔らかい	32.2	あたたかい	39.5				
14位	おだやかな -- 善人のような -	30.0 30.0	あじわいがある モダンな	34.9 34.9	あたたかい ていねいな +	42.6 42.6	ていねいな ++	46.9
15位							のんびりした ++ 上品な ++	45.3 45.3

Table 6　ケース3(普通肌の色黒寄りを最初に選択したケース)に対する評価語の上位一覧表

	日本		インドネシア	
順位	評価語	選択率(%)	評価語	選択率(%)
1位	親しみやすい 意志が強そうな	24.4 24.4	はきはきとした ++	31.8
2位			近づきやすい +	30.3
3位	うちとけた ふけた ++	23.9 23.9	親しみやすい のんびりした	28.8 28.8
4位				
5位	あじわいがある ++	22.7	愉快な 善人のような	21.2 21.2
6位	貧相な ++ あたたかい	22.2 22.2		
7位			意志が強そうな	19.7
8位	ねちねちした ++	21.6	あたたかい 可愛らしい ++	18.9 18.9
9位	陽気な	21.0		
10位	愉快な	19.3	うちとけた	18.2
11位	モダンな ++ 近づきやすい -	18.8 18.8	落ち着いた りこうそうな	17.4 17.4
12位				
13位	古くさい	18.2	好き	15.9
14位	落ち着いた	17.6	陽気な うすっぺらな	15.2 15.2
15位	はきはきとした --	17.0		

Table 7　ケース3(普通肌の色黒寄りを最初に選択したケース)に対する評価語の上位一覧表
-性別での比較-

	日本男性		日本女性		インドネシア男性		インドネシア女性	
順位	評価語	選択率(%)	評価語	選択率(%)	評価語	選択率(%)	評価語	選択率(%)
1位	貧相な ++	27.8	親しみやすい うちとけた ++	32.6 32.6	はきはきとした +	33.8	近づきやすい はきはきとした 愉快な	29.7 29.7 29.7
2位	ねちねちした ++	26.7			近づきやすい のんびりした +	30.9 30.9		
3位	ふけた +	25.6	意志が強そうな あたたかい	26.7 26.7				
4位	のんびりした	23.3			親しみやすい	29.4	親しみやすい	28.1
5位	意志が強そうな	22.2	あじわいがある ++	25.6	善人のような うすっぺらな + 女性的な ++	19.1 19.1 19.1	のんびりした	26.6
6位	落ち着いた あじわいがある	20.0 20.0	陽気な	24.4			可愛らしい ++ うちとけた	25.0 25.0
7位			愉快な	23.3				
8位	あたたかい 陽気な	17.8 17.8	ふけた モダンな ++ きりっとした ++	22.1 22.1 22.1	意志が強そうな 古くさい	17.6 17.6	善人のような	23.4
9位							意志が強そうな あたたかい 落ち着いた	21.9 21.9 21.9
10位	親しみやすい - 近づきやすい 丸みのある	16.7 16.7 16.7			あたたかい 好き	16.2 16.2		
11位			近づきやすい 古くさい	20.9 20.9				
12位					陽気な りこうそうな うわべだけの	14.7 14.7 14.7	りこうそうな	20.3
13位	うちとけた 愉快な 古くさい モダンな	15.6 15.6 15.6 15.6	りこうそうな はきはきとした	19.8 19.8			陽気な 好き 美しい + おとなしい +	15.6 15.6 15.6 15.6
14位								
15位			明るい ++	18.6	愉快な 落ち着いた 可愛らしい 甘い おとなしい 保守的な	13.2 13.2 13.2 13.2 13.2 13.2		

3・2・3　普通肌の色黒寄り(5.0YR 6.5／5.0)の刺激に関する結果

Table 6およびTable 7は,同様にケース3（普通肌の色黒寄りの刺激である 3番の刺激を最初に選んだもの）の評価語の上位一覧表である。普通肌の色黒寄り（5.0YR 6.5／5.0）の刺激が最初に選択された評価語として総合的に最も多かったものは「親しみやすい」の81反応であり、これは4つの刺激の中で最も第一選択になりにくかった刺激と言える。両地域に共通して多く選ばれた評価語としては、「親しみやすい」、「意志が強そうな」、「うちとけた」、「愉快な」、「近づきやすい」、「あたたかい」、「落ち着いた」、「陽気」、「はきはきとした」であるが、このうち、「はきはきとした」という評価語はインドネシアでは第1位となっているのに対し、日本では15位である。また日本で多く選ばれた評価語はインドネシアで上位に選ばれた評価語と異なっているのがこれらの表から分かる。すなわち日本の上位評価語は、「ふけた」、「あじわいがある」、「貧相な」、「ねちねちした」、「モダンな」、「古くさい」のようにネガティブなイメージのものが多いが、インドネシア 場合は 「のんびりした」、「善人のような」、「可愛らしい」、「りこうそうな」、「好き」というようにポジティブなイメージも含まれている。

日本で多く選択された「貧相な」というイメージは特に日本男性が多く抱いているイメージであることがTable 7より分かる。日本男性の場合はその他に、「ねちねちした」、「のんびりした」、「落ち着いた」、「丸みのある」が多いが、女性の場合は、「きりっとした」、「りこうそうな」、「はきはきとした」、「明るい」が多く、ポジティブな評価語が男性よりは若干多く見られる。インドネシア女性の場合も、「うちとけた」、「美しい」というポジティブなイメージが多く持たれているが、インドネシア男性の場合になると「うすっぺらな」、「女性的な」、「古くさい」、「うわべだけの」、「甘い」、「保守的な」というようにネガティブなものが多くなり、この刺激に関しては両地域に共通して性差を感じさせる。

3・2・4　色黒肌（5.0YR 6.0／5.0）の刺激に関する結果

Table 8およびTable 9は、同様にケース4(最も色黒肌の刺激である4番の刺激を最初に選んだもの）の評価語の上位一覧表である。色黒肌(5.0YR 6.0／5.0）の刺激が最初に選択された評価語として総合的に最も多かったものは「女らしくない」の237反応であった。両地域に共通して多く選ばれた評価語としては、「女らしくない」、「派手な」、「いやらしい」、「うわべだけの」、「はきはきとした」、「意志が強そうな」、「貧相な」、「ふけた」、「うすっぺらな」、「ねちねちした」である。日本で多く選ばれた評価語として特徴的なものは、「特色のある」、「いばった」であり、これらはインドネシアで色白肌の刺激への評価であったのが興味深い。その他、「軽い」、「陽気な」、「愉快な」も日本での上位評価語である。インドネシアの上位評価語は、「古くさい」、「消極的な」、「甘い」、「静かな」、「丸みのある」で、これらは逆に日本の色白肌の刺激へのイメージと多く一致する。

日本男性の場合、「あじわいがある」、「うすっぺらな」が日本女性には観察されない上位評価語であるのに対して、日本女性の場合は、「きりっとした」、「ねちねちした」が上位評価語として特徴のあるものである。このうち「きりっとした」は普通肌の色黒寄りの刺激における日本女性でも上位に見られた特徴的な評価語であり、日本の女性の場合、肌の色が濃くなると「きりっとした」印象を持ち始めることが分かる。インドネシア男性の場合は「保守的な」というイメージが特徴的であり、インドネシア女性の場合は、「派手な」、「うちとけた」、「デリケートな」が上位評価語として特徴的であった。

4　考　察

調査1の因子分析による結果でも調査2の数量

Table 8　ケース4(色黒肌を最初に選択したケース)に対する評価語の上位一覧表

	日　本		インドネシア	
順位	評価語	選択率 (%)	評価語	選択率 (%)
1位	女らしくない	75.0	貧相な ++	87.1
2位	特色のある ++	69.9	女らしくない	79.5
3位	派手な ++	64.2	いやらしい ++	76.5
4位	いやらしい --	61.4	ふけた ++	74.2
5位	いばった ++	58.5	古くさい ++	52.3
6位	うわべだけの ++	54.5	意志が強そうな	51.5
7位	軽い ++	51.1	消極的な ++	48.5
8位	陽気な ++	48.9	ねちねちした	44.7
9位	はきはきとした	46.0	はきはきとした	43.2
10位	愉快な ++	44.9	うすっぺらな	40.2
11位	意志が強そうな	44.9	うわべだけの --	37.9
12位	貧相な --	38.6	甘い ++	37.1
13位	ふけた --	36.9	静かな ++	35.6
14位	うすっぺらな	35.2	丸みのある ++	34.1
15位	ねちねちした	34.1	派手な --	31.8

Table 9　ケース4(色黒肌を最初に選択したケース)に対する評価語の上位一覧表
-性別での比較-

	日本男性		日本女性		インドネシア男性		インドネシア女性	
順位	評価語	選択率 (%)	評価語	選択率 (%)	評価語	選択率 (%)	評価語	選択率 (%)
1位	女らしくない	75.6	女らしくない	74.4	貧相な ++	83.8	貧相な ++	90.6
2位	特色のある ++	71.1	特色のある ++	68.6	女らしくない	83.8	女らしくない	75.0
3位	派手な ++	65.6	派手な ++	62.8	いやらしい ++	82.4	ふけた ++	73.4
4位	いやらしい	64.4	いばった ++	60.5	ふけた ++	75.0	いやらしい	70.3
5位	うわべだけの ++	61.1	いやらしい -	58.1	古くさい ++	58.8	意志が強そうな	56.3
6位	いばった ++	56.7	意志が強そうな	50.0	ねちねちした +	51.5	はきはきとした	50.0
7位	軽い ++	56.7	はきはきとした	48.8	消極的な ++	51.5	古くさい	45.3
8位	陽気な ++	51.1	うわべだけの	47.7	うすっぺらな +	50.0	消極的な ++	45.3
9位	愉快な ++	46.7	陽気な ++	46.5	意志が強そうな	47.1	甘い ++	42.2
10位	はきはきとした	43.3	軽い ++	45.3	うわべだけの	44.1	派手な	40.6
11位	意志が強そうな	40.0	愉快な --	43.0	丸みのある ++	38.2	ねちねちした	37.5
12位	あじわいがある ++	37.8	貧相な ++	43.0	静かな ++	38.2	うちとけた	45.9
13位	ふけた --	36.7	きりっとした ++	41.9	保守的な ++	38.2	静かな ++	32.8
14位	貧相な --	34.4	ふけた --	37.2	はきはきとした	36.8	うわべだけの --	31.3
15位	うすっぺらな	34.4	ねちねちした	37.2	甘い +	32.4	うすっぺらな 丸みのある デリケートな ++	29.7 29.7 29.7

化Ⅲ類による分析でも日本における各刺激に対するイメージはほとんど一致していており、またそのイメージにはそれぞれ特徴があったが、調査2の日本とインドネシアの比較から、肌の白さに対する評価は両地域でかなり異なっていることが分かった。色白の肌は日本では「弱々しい」イメージが強いものの、その弱々しさは、おとなしくデリケートで保守的な印象や、やわらかく女性的で可愛らしいイメージとの結び付きであることが分かり、日本における女らしさのステレオタイプに一致するイメージを持たれていると判断できよう。それに対してインドネシアでは、同様に「弱々しく」「清潔な」印象は強いものの、「いばった」イメージや「派手な」イメージ、また「幼い」イメージなど、どちらかというとネガティブな傾向を持つ。ポジティブな場合でも「特色のある」「しゃれた」イメージなど、ある種の特殊性が感じられる。ただし選択率としては多くないが、日本もインドネシアも男性は色白肌に対して「弱々しい」イメージだけではなく「意志の強そうな」(日本男性;22.2%$^{++}$,日本女性;4.7%$^{--}$, インドネシア男性;14.7%,インドネシア女性;7.8%)、「はきはきした」(日本男性;17.8%$^{+}$, 日本女性;5.8%, インドネシア男性;13.2%,インドネシア女性;7.8%)イメージも持っていることは興味深い。

しかし結果でも述べた様にこの相反する関係は色黒肌の刺激を第1選択としたケース4において逆転する。すなわち日本人が色黒肌の刺激に抱いたイメージはインドネシア人が色白肌の刺激に抱いたイメージと一致し、逆に日本人が色白肌の刺激に抱いたイメージはインドネシア人が色黒肌の刺激に抱いたイメージと多く一致する点である。その理由に関しては何らかの文化的背景とその影響を感じさせるが、本研究結果からは明かではなくこの点に関してはより深い研究が必要と考えられる。

インドネシアの場合、肌の色の濃さは加齢を意味するようであることが、「幼い」「ふけた」という評価語とのかかわりで分かった。即ち「幼い」と色白肌の刺激、「ふけた」と色黒肌の刺激との結び付きがインドネシアでは強かったわけだ。このように、年配者には褐色の肌、若者にはたとえ男性であっても色白の肌のように、老若の対比を肌の色で表現するようなことは、特に西洋絵画の中では一種の約束事のように使用されていた。

また日本では、色白肌の刺激に対し、インドネシアでは普通肌の色白寄りの刺激に対してそれぞれ「女性らしい感じ」を抱き、逆に色黒肌の刺激に両地域とも「女らしくない感じ」を抱いていたが、絵画の世界ではエジプトやローマの壁画でも男女の肌の色分けを慣習的に行っており、男は褐色、女は白、と明確な性別の区分を示す記号としていたようである。1400年頃に書かれたと思われるイタリア初期ルネッサンスの画家である Cenniniの書("Il libro dell'arte")[1]にも既にその約束事は書かれている。このように色白肌は女性らしさと結び付き、褐色の肌は女性らしくない、即ち男性的なイメージと結びつく背景は絵画にも見出せるようだ。

有意な性差も多く観察された。特に普通肌の色黒寄りの刺激では日本もインドネシアもネガティブな評価をしているのが男性であり(日本男性:貧相な、ねちねちした等。インドネシア男性:うすっぺらな、古くさい、うわべだけの等)、女性はむしろポジティブな受け止め方をしていた(日本女性:きりっとした、りこうそうな、はきはきとした、明るい等。インドネシア女性:うちとけた、美しい等)。 美しさの判断において色白肌を「美しい」と評価しているのは日本の方であり、インドネシアの場合はむしろ普通肌の色白寄りを「美しい」と選択していた(「美しい」という評価語に対する選択率:色白肌の場合:日本;60.8%,インドネシア;39.4%、普通肌の色白寄りの場合:日本;31.3%, インドネシア;53.0%)。また嗜好性という点から「好き」という評価語に着目するならば、「好き」と思われていたのは、日本もインドネシアも最も色白の印象を持つ刺激よりも普通肌の色白寄りの刺激であったことが明かとなった。具体的な形態を伴った場合、色の嗜好性は変化することが既存の研究結果からも明かであるが、

本研究結果からも同様の結論が導かれたと言えよう。

自己のアイデンティティーが形成されるに従い、自分の肌の色に肯定的な評価を与えるという主旨の事を述べる研究は幾つかあるが（Clark 1963[3]、Ogletree 1960[8]）、本研究のこのような結果は、それぞれの地域におけるナチュラルな普通肌の色を自己のある種の基準として、それよりも若干、色白寄りのものへと好みや美しさの評価が偏向したものとも考えられる。また肌色における記憶色の調査結果からも、自分が理想とする肌の色や、記憶している自分の肌の色が、実際の肌の色の測定値よりやや明度が高く色白寄りであるという事実にも関連していると言えよう。即ち基準からの若干の不適合が見られる訳だが、これらのことは好ましさや快さの感情が、心理的水準との適度の不適合と関わりを持つ（Haber 1958）[4] ということをも示唆するものと考えられる。そうであるとするならば、その心理的水準が形成される過程で、文化という環境要因が影響を与えることになるのかも知れない。

しかし，「おだやか」で「魅力的」で「知性的」というパーソナリティーと関連しているのは、日本もインドネシアも普通肌の色白寄りであり「陽気」で「親しみやすく」「あたたかい」パーソナリティーとして捉えられているのは、両国とも普通肌の色黒寄りであるということを考えあわせると、パーソナリティーの側面からは中庸であることが最も好ましいようである。

近年、ホワイトニングへの意識が高まる中、色白の嗜好構造に着目して調査および検討を行ってきたが、肌の色における白さが重んじられるのは、その貴族的なイメージとデリケートで弱々しいもろさという特殊性が関連しているようである。このことはまた日本をはじめとする周辺アジア地域で観察される白嗜好が、その特殊性や稀少性から変容していったことを示唆するのかも知れない。

引用文献

1) Cennini C. circa 1400 "Il libro dell'arte".
2) 中小企業事業団報告書 "消費者の色彩嗜好に関する研究" 中小企業事業団 (1972)
3) Clark K., "Prejudice and your child". Beacon Press, Boston, (1963)
4) Haber R.N. "Discrepancy from adaptation level as a source of affect". *Journal of Experimental Psychology.*, **56** 370-375 (1958)
5) 岩下豊彦、"SD法によるイメージの測定" 川島書店 (1983)
6) 小林嗣幸、"おしゃれの色彩" 日本色研事業株式会社 (1967)
7) "日本色彩研究所色彩情報研究会 第12回消費者の色彩嗜好調査報告書データ集" (財) 日本色彩研究所 (1992)
8) Ogletree E. "Skin color preference of the Negro child". *Journal of Social Psychology.*, **79** 143-44 (1969)
9) 齋藤美穂、"色彩嗜好における Cross-Cultural Research" 早稲田大学文学研究科紀要, 27 211-216 (1981)
10) 齋藤美穂、冨田正利、向後千春、"日本の四都市における色彩嗜好(1) -因子分析的研究-" 日本色彩学会誌 **15** No.1, 1-12 (1991)
11) 齋藤美穂、冨田正利、山下和幸、"日本の四都市における色彩嗜好(2) -クラスター分析によるライフスタイル特性の類型化-" 日本色彩学会誌、**15** No.2, 99-108 (1991)
12) 齋藤美穂、"アジアにおける色彩嗜好の国際比較研究(1) -日韓比較・白嗜好に着目して-" 日本色彩学会誌、**16** No.1, 1-10 (1992)
13) Saito M. "A cross-cultural study on color preference in three Asian cities :Comparison between Tokyo, Taipei and Tianjin". *Japanese Psychological Research.*, **36** No.4, 219-232 (1994)
14) Tsukada I., Funatsu K., & Sato M. "A study on color preference". *Acta Chromatica.*, 1 131-146 (1964)